

平成 21 年度事業報告書

(自平成 21 年 7 月 1 日 至平成 22 年 3 月 31 日)

公益社団法人日本フィランソロピー協会

＜目 次＞

I. 社会貢献啓発事業（公益事業1）	3
1. 機関紙 月刊「フィランソロピー」の発行	3
2. インターネットを利用した情報提供事業（SNS・メルマガ・ホームページ）	3
II. 社会貢献促進事業（公益事業2）	3
1. 研修事業（定例セミナー）	4
2. 企業の社会参加支援事業（コンサルティング）	5
3. フィランソロピーバンク事業（個人の寄付文化醸成事業）	6
4. 顕彰事業（まちかどのフィランソロピスト賞・企業フィランソロピー大賞）	7
5. 助成事業	8
III. 共生社会創造（ソーシャルインクルージョン）事業（公益事業3）	8
1. IT活用による音訳サービス『声の花束』事業	8
2. アートエイド名刺事業	8
3. 助成事業	9
4. 業務受託事業	9
5. 知的障害者の自主製品紹介サイト「アニモショップ」	10
6. インターンシップおよび体験ボランティア受入れ事業	10
IV. 当協会 会員数の推移	10

平成21年度 事業報告書

当協会は、平成21年7月1日をもって公益社団法人に移行いたしました。
当年度は移行初年度として、より社会の信頼に応えられよう努力してまいりました。
活動内容につきまして、以下のとおりご報告申し上げます。

I. 社会貢献啓発事業（公益事業1）

（公益事業1）市民、団体、企業のフィランソロピー（社会貢献）活動を啓発、啓蒙するとともにボランティア活動、公益活動への関心を深め、より良い社会の醸成に寄与する事業

1. 機関誌 月刊『フィランソロピー』の発行（年10回）

- ・当協会の活動報告とともに、フィランソロピー関連課題の特集を組み、企業フィランソロピー、NPOの活動情報を掲載する機関誌月刊『フィランソロピー』を以下のとおり発行した。

発行月	特 集 名
7月号	「高校生の底力」
8月号	公益社団法人認定特集号「民間の果す公益とは」
9月号	「お客様とともに育てるホスピタリティ」
10・11月合併号	「スポーツが作り出すフィランソロピー」
12月号	「江戸の文化を活かし、未来を創る」
1月号	「足るを知る」一人ひとりが担う公益
2月号	「女性を活かし、未来を創る」
3月号	「CSRのベストプラクティス」第7回企業フィランソロピー大賞

2. インターネットを利用した情報提供事業（SNS・メルマガ・ホームページ）

- ・社会貢献SNS「フィーモ」をリニューアルし、NPO研修および知的障がい者の支援者によるコミュニティを開設。
- ・メールマガジンを定期的に発行。（毎月1日・15日配信 配信件数約9,000件）
- ・ホームページを随時更新。

II. 社会貢献促進事業（公益事業2）

（公益事業2）主に企業の社会貢献担当者、NPO・NGO職員を対象とし、社会貢献・社会的責任に対する考え方の議論の場の提供、組織運営等に対する能力開発、更には具体的な活動の紹介を通し、企業はじめ、さまざまな組織における社会貢献の推進を支援する事業

1. 研修事業（定例セミナー）

・企業の社会貢献担当者が、CSR やフィランソロピー関連の知識・情報の共有ができるよう、さらに、社会貢献事業の企画立案に役立てるよう、事例紹介・ワークショップ などを実施した。また、このセミナーは、他社担当者や NPO・行政機関等とのネットワークを拓ける機会としても機能している。

- (1) 対象 : 企業の社会貢献・CSR 担当者など
- (2) 開催数 : 月 1 回（8 月は除く。本年は夏休み特別編として 8 月も開催）
- (3) 企画・運営幹事 : 青木 高 氏（日本アムウェイ合同会社）
松原 朋子 氏（マイクロソフト株式会社）
櫻内 郁子 氏（日本電気株式会社）
- (4) 形態 : 講演会、ワークショップ、体験ボランティア、意見交換会 など

第 241 回 平成 21 年 7 月 15 日	「東京おもちゃ美術館を支える 4000 人のボランティア」 多田 千尋氏（特定非営利活動法人日本グッド・トイ委員会理事長 ・東京おもちゃ美術館館長）
夏休特別編 平成 21 年 8 月 17 日	「ソーシャル・マーケティングから見た CSR」 ～「よりよき社会」を創るためのマーケティング～ 井関 利明氏（慶應義塾大学名誉教授、社会学博士）
第 242 回 平成 21 年 9 月 15 日	「環境教育の本質を振り返る」 ～25 年の自然体験型の環境教育プログラムの実践から見てきたもの～ 川嶋 直氏（財団法人キープ協会 常務理事）
第 243 回 平成 21 年 10 月 22 日	「企業と NGO との協働の可能性を探る」 ～国際協力 NGO によるプレゼンテーション・コンペ～ （参加 NPO） 特定非営利活動法人 ADRA Japan 特定非営利活動法人 AMDA 社会開発機構 財団法人アジア保健研修財団 認定特定非営利活動法人ブリッジ エーシア ジャパン 特定非営利活動法人地球市民の会
第 244 回 平成 21 年 11 月 13 日	「ISO26000 の動向と企業の課題」 関 正雄 氏（株式会社損害保険ジャパン コーポレートコミュニケーション企画部 CSR・環境推進室長）
第 245 回 平成 21 年 12 月 24 日	「地球温暖化対策の現状 ～今後、企業に求められることとは～」 福嶋 慶三 氏 （内閣官房長官補付（地球温暖化問題担当）参事官補佐）
第 246 回 平成 22 年 1 月 18 日	「今、企業に求められる『青少年の健全育成』とは」 玄田 有史 氏 （東京大学社会科学研究所教授 経済学博士）
第 247 回 平成 22 年 2 月 22 日	「新しい公共」をどうつくるか？ ～企業における、文化・芸術支援の意義とは～ 加藤 恒夫 氏（社団法人企業メセナ協議会 専務理事）

第 248 回 平成 22 年 3 月 12 日	「企業市民としての社会貢献活動を考える」 ～日本サムスン株式会社と株式会社ファンケルの事例から～ ■「あすなろ学校」（若者自立支援と聴導犬育成）について 水上 朋子氏（日本サムスン株式会社 Social Relations Team 課長） ■「訪問の家」（重度・重複障がい者通所施設）との交流について 上野幹也氏（株式会社ファンケル CSR ユニット環境・企業文化グループ マネージャー）
--------------------------------	--

2. 企業の社会参加支援事業（コンサルティング）

- ・企業の社会貢献事業に対する企画提案（社会貢献プログラム立案・NPO 支援先提案など）と運営（共催・事務局など）の協力を行った。

（1）日本製紙株式会社

毎年「森と紙のなかよし学校」として、社員参加で実施してきたプロジェクトで、今年第 7 回および第 8 回を行った。

一般の親子 30 名を招待し、「森を歩こう・小枝から紙を作ろう」のテーマで自然とのふれあい体験を実施した。

i) 日 時： 第 7 回 6 月 6 ～ 7 日、第 8 回 9 月 26 ～ 27 日

ii) 場 所： 同社社有林（群馬県丸沼高原）

（2）三井物産株式会社

Mitsui Global Volunteer Program の一環として、社員向け講演会「ボランティア講演」を実施した。

①日 時： 平成 21 年 11 月 9 日

②場 所： 同社 本社ビル会議室

③テーマ： 「可能性への挑戦」

④講 師： 細川佳代子氏

（認定特定非営利活動法人スペシャルオリンピックス日本 名誉会長、
特定非営利活動法人勇気の翼インクルージョン 2015 理事長）

（3）第一生命保険株式会社

同社の実施している、保健福祉、生活環境、地域貢献など多様な社会貢献活動への顕彰の審査を、同社の依頼にて実施した。

（4）日本サムスン株式会社

サムスングループが世界で実施している「サムスン・ボランティア・フェスティバル」の一環として

日本サムスン全役職員参加のもとに「日本サムスン・ボランティアデー」を毎年秋に実施している。平成21年度は、全37team、39活動、延べ459名の役職員がボランティアを行った。当協会は「日本サムスン・ボランティア賞」の選考に審査員として参加した。

3. フィランソロピーバンク事業（個人の寄付文化醸成事業）

- ・企業の社員、顧客や株主からの寄付と企業の協働寄付システムで、平成21年度参加企業は以下のとおりであった。

（1）日本郵船株式会社

- ①概要：NYKハートフル募金として社員からの募金を実施した。

募金期間初日、昼休時間に支援NPOより社員向けプレゼンテーションを実施した。

- ②寄付先：社会的困難を抱える子どもへの3支援団体

・社会福祉法人カリヨン子どもセンター
・特定非営利活動法人チャイルドライン支援センター
・西脇基金を支える会

（2）王子ネピア株式会社

- ①概要：「箱だけちよびっと小さいサイズ」のエコティッシュ新発売を記念して、同社が刊行した「ちよび絵本シリーズ」、『しろくまくん どうして?』と『いなくなるかもしれないどうぶつのずかん』8,000冊を寄付し、当協会は寄付先選定およびコーディネートを実施した。

- ②寄付先：

全国の児童福祉関連施設、子育て支援関連施設

（3）ファンケル株式会社

- ①概要：平成20年度にスタートした「新ポイントサービス」による寄付金で、お客様が保有するポイントに社員からの寄付を加え障害者団体へ寄付した。

- ②寄付先：全国の重度心身障がい者福祉施設（10団体）

・社会福祉法人仙台つどいの家	・社会福祉法人くすのき会
・特定非営利活動法人夢すばる(むすばる)	・特定非営利活動法人寝屋川市民たすけあいの会
・社会福祉法人訪問の家 朋	・社会福祉法人田村やまびこ会
・社会福祉法人インクルふじ	・社会福祉法人青いりんごの会
・社会福祉法人ぶなの森	・任意団体 重度障害者小規模作業所なんくる

(4) 明治安田生命保険相互会社

①概要：同社が主催する全国での4回のコンサートの入場料収入および募金に、同社が同額を追加して寄付するプログラムである。

②寄付先：「こども」と「環境」をテーマとして活動している10団体

・特定非営利活動法人トラストサルン釧路	・特定非営利活動法人森の会
・特定非営利活動法人あぶくまエヌエスネット	・特定非営利活動法人関西こども文化協会
・特定非営利活動法人子育てサポーターチャオ	・財団法人ひろしまこども夢財団
・特定非営利活動法人子どもと文化協議会・プラッツ	・特定非営利活動法人コミネット協会
・特定非営利活動法人びわこ豊穰の郷	・特定非営利活動法人 沖縄 O.C.E.A.N

(5) 株式会社N T Tデータ

①概要：福祉作業所・授産施設で作ったお菓子里に寄付金を付けて2月のバレンタイン・イベントで社内販売し、同額を会社がマッチングして障がい者の自立支援を行っている団体へ寄付するものである。

②寄付先：障がい児・者への支援を行なっている3団体

・特定非営利活動法人ぱお
・特定非営利活動法人東京盲ろう者友の会
・特定非営利活動法人エッジ

4. 顕彰事業（まちかど・企業フィランソロピー大賞）

(1) まちかどのフィランソロピスト賞（第12回）

全国から社会的活動に寄付をした人を募り、顕彰することで個人の寄付文化の醸成をめざしている。

- ・一般部門：大賞 大川 瑜美子氏
濱崎 一途 氏
特別賞 岩隈 久志 氏

- ・青少年部門賞 新発田中央高等学校 吹奏楽部

(2) 企業フィランソロピー大賞（第7回）

「本業を生かした社会貢献事業」に特化して顕彰することで、CSR経営の普及・啓発につなげることを目的としている。

- ・大賞：中村ブレイス株式会社
- ・特別賞：
 - いのちの架け橋賞 飯田電子設計株式会社
 - 美は心とともに賞 株式会社資生堂
 - 自然共創賞 積水ハウス株式会社

5. 助成事業（アメリカン・エクスプレス財団）

- ・前年度に引き続き、NPO/NGOの次世代リーダーを育成するための研修プログラムを同財団と共催した。

参加者のほぼ全員から、非常に有意義であったとの感想があった。

次年度は一層のレベルアップをめざし、選考基準・講座内容の改善を図りたい。

- ① 日時： 平成22年1月21日～23日（合宿形式）
- ② 場所： 東京（クロスウェーブ東中野、アメリカン・エクスプレス・本社）
- ③ 対象： NPO/NGOならびに公的機関の若手職員
- ④ 内容： リーダーシップ論・問題解決の手法、実践事例紹介など
- ⑤ 総合監修： 米倉誠一郎氏（一橋大学イノベーション研究センター長・教授）

Ⅲ. 共生社会創造（ソーシャルインクルージョン）事業（公益事業3）

（公益事業3）より豊かで温かい社会を形成するために、誰も排除されることなく、社会の一員として全ての人が社会参加できる機会を提供し、精神的、経済的に自立した生活の実現を支援する事業

1. IT活用による音訳サービス『声の花束』事業

- （1）対象：①視覚障害者・高齢者など活字情報弱者と言われる人々
②日本語情報を得にくい海外在日本人、日本語学習外国人
- （2）内容：①音声化した書籍、生活情報のインターネット配信
②企業向け講習会
 - ・ゴールドマン・サックス証券株式会社
 - ・株式会社ジャパンエナジー
 - ・株式会社NTTドコモ、ドコモ・サポート株式会社
 - ・日本メトロニック株式会社
 - ・ロシュ・ダイアグノスティックス株式会社
- ③従業員による音訳ボランティア参加
 - ・ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社

2. アートエイド名刺事業

- （1）内容：フィランソロピー普及と障害者の経済的自立のための名刺制作を行う事業である。実績の推移は以下のとおりである。
（事務局・制作は財団法人新宿区勤労者・仕事支援センター「チャレンジワーク」に委託し、16名の障害者がかかわっている。）

(単位:件,1件は100枚)

	平18年度	平19年度	平20年度	平21年度*
制作件数	410	447	415	381

*平成21年度は平成21.7.1.～平成22.3.31 平成21年度のうち26%が新規

3. 助成事業（独立行政法人福祉医療機構）

- ・「知的障害者のよりよい就労・定着促進」を目的に福祉医療機構と協働で行う事業で、知的障害者に対する職域の拡大、指導法やコミュニケーションなど、福祉・企業・地域が連携して実施している具体的な施策情報を、共有するものである。

(1) 外部専門家による企画委員会の設置

アドバイザー：秦 政 氏

(特定非営利活動法人障がい者就業・雇用支援センター 理事長)

委 員：小川 浩 氏

(大妻女子大学 教授

/特定非営利活動法人ジョブコーチ・ネットワーク理事長)

中井 志郎 氏 (株式会社かんでんエルハート代表取締役)

(2) 企業および団体における先進事例調査の実施

企業における知的障害者雇用や、社会貢献の先進事例を調査

(3) 事例報告書の作成

知的障害者雇用の促進と地域の連携を進めるための手引書とする

ことを目的として、500部作成。

(4) シンポジウムの開催

①日時：平成22年2月24日（水）

②場所：日本アムウェイ合同会社 B1F オーディトリウム

③基調講演者：大山 泰弘氏（日本理化学工業株式会社取締役会長）

④講演テーマ：「企業・福祉・地域の連携で実現する、知的障害者の経済的自立」

4. 業務受託事業（財団法人こども未来財団）

- ・平成16年度より6年間にわたり、財団法人こども未来財団との共催により、全国主要都市で開催してきた「ワークライフバランス推進のための企業とNPOの子育て支援協働セミナー」を、今年度も開催した。

内容： ①基調講演 ②基調報告 ③パネルディスカッション

(1) 東京会場（東京ウィメンズプラザ）

- ①日 時： 平成 21 年 7 月 30 日（木）
- ②講 師： 小室淑恵氏（株式会社ワーク・ライフ・バランス代表取締役）
- ③テーマ： 「新しい経営戦略～ワークライフ・バランス 考え方と導入法」

(2) 愛知会場（愛知県産業労働センター）

- ①日 時： 平成 21 年 10 月 1 日（木）
- ②講 師： 林 望氏（作家・書誌学者）
- ③テーマ： 「楽しい子育てで世界を元気に～親の役割と子の心」

(3) 広島会場（広島国際会議場）

- ①日 時： 平成 21 年 11 月 20 日（金）
- ②講 師： 大竹美喜氏（アメリカンファミリー生命保険会社 創業者最高顧問）
- ③テーマ： 「企業にとってのワーク・ライフ・バランス～その本質とは～」

5. 知的障害者の自主製品紹介サイト「アニモショップ」

- ・障がい者の自主製品をインターネット上のアニモショップで紹介し
障がい者の社会的認知の向上と経済的自立支援を行っている。

6. インターンシップおよび体験ボランティア受入れ事業

- (1) 当協会では、次世代の社会貢献活動を担う若手人材を常時インターンとして受入れており、今年度は、大学、企業、および中間支援組織からの依頼などにより、学生 10 名を受入れた。
- (2) シティグループがワールドワイドで行う社員をボランティアに派遣するプログラムに、当協会は、会員である日本法人シティグループ・ジャパン・ホールディングス株式会社から 4 名の方々を受入れ、翻訳などの業務を担当していただいた。

Ⅴ. 当協会 会員数の推移

当協会の会員数の推移は以下のとおりである。

	平17年度末	平18年度末	平19年度末	平20年度末	平21年6月	平21年度末
正会員	42	48	51	47	47	49
賛助会員(法人)	44	56	59	56	58	54
計	86	104	110	103	105	103

依然として経済環境は厳しい状況にあるものの、企業として社会全体、国家全体の健全な発展に寄与することの必要性、重要性の認識は高まりつつあるので、当協会が目指す理念を積極的にアピールし、会員数の増加に努める所存である。

附属明細書について

平成 21 年度事業報告書には「一般社団法人及び一般財産法人に関する法律施行規則」第 34 条第 3 項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在していないので作成していない。